勿入書屋

全

027
254
1

027
254
1

愛知女専
第 11355 號
圖書

序

鳥不啼されハ高き梢も
手ゝ紙ゝ[illegible]ゝ[illegible]
をのゝ文[illegible]の海ゝ[illegible]の枝
ふ[illegible]うつ[illegible]枝ふりうへて
[illegible]
[illegible]

ろ紙ゝ[illegible]の書[illegible]
[illegible]
くゝ[illegible]
柳ハ[illegible]
の[illegible]
[illegible]
[illegible]

白紙にしたゝめて云給の口ぶり
き作をもとゝ笑ふや八又乃
手もとゝ此度実をもとゝ乃ゝ
是は俳名紙ゆゝ[illegible]の
使とゝもゝゝ[illegible]
不[illegible]て[illegible]て市に
庵をゝゝ[illegible]

いかひなんをゝゝ[illegible]
[illegible]
ゝゝ[illegible]

元文三癸二月日

和橋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

甲陽中郡連

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和雄　和川　一橋　梁肥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山梁　志計　亀遊　流色　里仙　林和　兎行

春興

菜の蝶く年房の花の鶯ぶ　諸自
かすの雅や桜の上なれ大藤波　笑種
舟をしやれ八尤も桜八相　長志丈
去年咲さうくの外や釜拂ひ　間如
汐干てや馬乃の内や沖の石　求己
三日月の影をゆる立つ鶴うか　几迹
うひすの高ぶりきれの長を　襟江

里の子ハ蕨くもきれの堤うな　寸雨
木伝う玄栄曜や梅の帆うあ舟　露治
松山う潮くく育ハ さみうか　蹠通
玄冥うう二階へ数々ほ夢う南　守南
藤棚ハ花を尋る小鶯かな　草長
ちくき日ハ白ぎざうに啼雛子ハ　孤竹
麥畑や桜さす世乃ちる春頃　雅通

同

菜の葉や待をくなる飯ぬか　南浦
衣文掛や田面の蝶の明はなる　芦河

、

青柳か吹をやすき陰とまりを　羽搖
おもしろく岩山さみる雨つゝし　志映
炉とゝく飲かゝるいとをとの哀　白芳
ゆゝしかるまはまるく雲雀こゑ　露丸
菜の花や庵でゆたをかくやく　英瑞

すゝもきを出おんなや花むし　琴江
ちらこれ物住ちきせとをなるこゑる　松笠
蝶こゝや内日うゝ日うゝ虻搖番結　知行

、

ゆたかにお古山の鶯うさみゝ蛙　林鶯
山の陽やまさちゝ月くと秋色　霞林

、

行人の拾ひ忘れる聖梅うの形　一林

谷川にあれ花よりは泥しき竹の枝　挿枝

さゝすらく走つ陰も乃詠うる所　和友

寿つ布子く出てよとの詠る桃の春　佳永

うきりの形く雲に流くや山さくら　水雅

咲きおもしろや世の中やかさぶ　右竜

末乃今やまた右と延ありの菊の苗　川石

菊苗やそのふうの何里華の節　兎江

花なれや見れは挿木乃操　白洲

咲初る香歩よりの花乃兄　柳歩

入人へ香乃見る門里の梅の門　白扇

縁にのくもに家守るあのの花　和永

、

美人乃粧香割や亀の春　一吟

露せくいとふに寄き谷根ぶ　勇之

花さうの鳥も絡りたふれけり　豊嘯

蝶々や己しは友乃うきあまり　李生

ゆく秋や素うどんを食べる人の次第

雨色

すすきとりてなくなく咲や思ひ草

仙風

梅の香や何のまぎれかなきとて後

可賢

欲かくるも浪の業塚やもくの実

芦舟

ちぎりぞうな枝へ配る梅の花

白志

傘のかやくばるくやなきうか

千畝

余所ぶりく町へとて勝栖の形

仁風

舟人のなぶりきく行抑うか

仙路

おもしろや新生の麦に一穂ぬく

翠羽

ゐるかまき物ひとやとも芦の角

涼花

ゆるゆるやもう欲めやうにとく後

塩車

見えぬ雉子の夢や蚊帳の糸

雲里

業の苦やあれこの机時をおもし

南国

雨町

霞綾

雪水

文車

鶴壽

仙溪

大盃

玄雪

五株

花笠

青牛

林星

春興

麥阿
馬光
寒和
喬谷
桂珠
宗瑞

和橋
林和
雲里
可賢
仁風
仙路
芦舟
青牛

ウ
堀よりも芋の評義も出しきりて　和雄
うちを守るゝかしらぶ軍兵　塩車
児へ渡る一の鳥居や二乃鳥井　免行
船漕は高く拳と仕出きも　一橋
出られすも鬚とられて面はいなれ　和川
きこの飛出のしかお歴々様　雨声
せはくの栫くゆこのれさ舞扇　流巴
節子すまらけ何んかつる口　林里

はしめつくる風呂の火を焚て居　亀遊
おもはしけかる霜月の内　霞綾
うまいくは佛法僧乃嘆きと　京花
不断より通して書物高ひ　雨町
ちり川は雪あら形くもちの渡しもる　千畝
二
さとし飢飛の甚や詠らん　南国
竹らしもはんや藍の模様よし　翠羽
鳴ずのつくるおとらひの虹　和永

町の[illegible]天竺かるく[illegible]場を[illegible]
上ものしるもの坂入一てり
そなはるかるもの[illegible]
[illegible]雲路の雲降須
[illegible]仕宮なるの勧めき
[illegible]廉[illegible]のを養生の
[illegible]れ[illegible]裏[illegible]田の風[illegible]
仮[illegible]とくるる[illegible]頼の[illegible]

白志
和鶏
[illegible]
[illegible]
林和
仁風
[illegible]
芦[illegible]

通[illegible]の唯経宗と[illegible]
七[illegible]の鐘[illegible]
久月と四[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]中[illegible]
[illegible]
[illegible]堂[illegible]物の[illegible]
又麿那一山の西[illegible]

仏[illegible]
[illegible]
四声
和雄
一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]川

綿帽子を出迎爲に出すれ　　春宜
十人と五つ四つなる笑ひ人　　法巳
はるかなる茶を呼ぶ声の聞き出し　　西丁
月の秋しい数の多い事　　源安
ふまふかなるぬと張の町一方　　南雲
ふみ抜よて羽織ちいさ家　　千蔵
釣り出せくかの風うれ　　和永
こやさのくの墓と松茶　　公志

訪さすらか求し花の下屋敷　　蝕事
饌の逃ひの涌かき中　　翠雅

元文三戊年乃新生

彫工
倉田治秀